

町田生きもの共生プラン

～生物多様性はじめの一步～

2019年度進捗報告書

「町田生きもの共生プラン」は、2015年に策定されました。これは、生物多様性基本法（2008年制定）で、「生物多様性地域戦略」の策定が地方自治体の努力義務とされたことを受け、町田市が行うべき施策を取りまとめたものです。また、2012年に策定された第二次町田環境マスタープランの基本目標2「自然環境と歴史的文化的環境の保全」を実現する取り組みとしての位置づけも持っています。

本報告書では、町田生きもの共生プランの4つの基本方針とそれに沿った目標に対する成果と課題をまとめました。また、4つの目標ごとに掲げる施策を横断的かつ効果的に推進するための重点プロジェクトの進捗状況についても報告します。

なお、本プランの施策の目標最終年度は、2021年度です。

町田生きもの共生プランの概要

■ 将来像（理念）

『源流から里山、街が織りなす いのち輝く町田』

■ 計画期間

本計画の対象期間は2015年から2021年までの7年間となります。

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
				報告対象		

■ 基本方針

- 1 意識高揚 『理解する』
- 2 人材育成 『育つ』
- 3 協働・連携 『つながる』
- 4 持続可能な利用 『守る・活用する』

■ 目標（上掲の基本方針ごとに4つの目標を設けています。）

- 1 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。
- 2 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全を行う人材を育てます。
- 3 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。
- 4 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

※各目標にひもづいて施策が定められ、取り組みを進めています。（巻末実施状況一覧参照）

■ 重点プロジェクト（上掲4つの目標を横断的に捉えて取り組むプロジェクトです。）

- ① 生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実
- ② 多様な主体の交流の場づくり
- ③ 里山の生物資源利用促進の取り組みの実施
- ④ 市民協働による生きもの調査への参加者数
- ⑤ ビオトープ作庭イベントの開催

基本方針 1 意識高揚 ～理解する～

＜目標＞ 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。

【施策】

① 生物多様性に関する意識啓発

- ・ 市民向けの情報発信
- ・ 事業者向けの情報発信
- ・ 生物多様性に関する資料・情報の収集・発信の仕組みづくり
- ・ 各種イベントの開催

② 学びの場づくり

- ・ 子ども向けプログラムの実施
- ・ 学校における取り組みの推進
- ・ 地域における取り組みの推進

2019年度の成果

- ・ 学校教育部、子ども生活部などの多くの部署において、子どもたちが生きものや自然にふれあい、学習する機会を提供しました。さらに、市内の様々な場所で、自然観察会や生きもの調査を実施し、生きものや自然に親しむ機会を提供しました。
- ・ まちピカ町田くん（スマートフォン写真通報アプリ）を使った生きもの調査を開始し、町田市ホームページ上でいただいた生きものの写真を紹介しました。投稿写真を掲載した冊子「まちだ生きものアルバム」を作製、市の施設等に閲覧用に配布し、パソコンがない方にも閲覧していただけるようにしました。
- ・ 町田市のホームページリニューアルを行い、「みどりと生きもの」のコンテンツを整理し、情報拠点として、市民が見やすいように工夫しました。アクセス数も伸びています。

※ 施策実施状況一覧 12 ページ～17 ページを参照

2020年度に向けた課題

- ・ 今後も継続して、生きものや自然にふれあい学習する機会の提供や、町田の生きものに魅力を感じられるような取り組みを行います。

基本方針 2 人材育成 ～育つ～

＜目標＞ 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全活動を行う人材を育てます。

【施策】

① 地域における人材の発掘と育成

- ・ 市民活動の担い手の発掘と育成
- ・ 農業の担い手育成

2019年度の成果

- ・ 市民協働による生きもの調査や環境学の講座を通して、生物多様性の維持・向上に関わる知識を提供しました。
- ・ 町田生きもの共生フォーラムでは、ビオトープの講習会と里山についての講演を行いました。また、各団体に参加を呼びかけ、7団体の方に参加いただき、パネルでの活動報告やチラシ等で団体のPRをしていただきました。

※ 施策実施状況一覧 18 ページを参照

2020年度に向けた課題

- ・ 市内には様々な自然環境があり、生物多様性保全のために必要な知識の範囲や活動内容も様々です。人材育成とともに活動に踏み出せる場を整えていくことが課題となります。

基本方針3 協働・連携 ～つながる～

＜目標＞ 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。

【施策】

- ① 市民と連携した取り組みの推進
 - ・市民協働の取り組みの推進
 - ・市民活動の支援
 - ・市民との協働・連携の仕組みづくり
- ② 大学や事業者との連携の仕組みづくり
 - ・大学や事業者と連携した取り組みの推進

2019年度の成果

- ・町田市HP上の活動団体紹介ページをご覧になった方から活動参加への問い合わせをいただきました。
- ・町田生きもの共生フォーラムを開催し、市内で活動する団体のPRを行うことができました。
- ・市内全域を対象に、まちピカ町田くん（スマートフォン写真通報アプリ）を使った生きもの調査を開始しました。また、アプリ連動企画や小学生と協働で、薬師池公園で外来生物であるザリガニの生息調査を行いました。
- ・アプリでの普及啓発について、大学の先生にいただいた意見を反映し、投稿への返信を開始しました。また投稿促進のキャンペーンを実施して、投稿数の増加につなげました。
- ・市民団体と協定を結び、里山再生事業の取り組みを進めています。
- ・下水道用地アダプト活動（自主的な美化等の活動）をしている市民団体により、市内の調整池で清掃と生きもの調査が実施されています。2019年度は1団体と新たに協定を結びました。

※ 施策実施状況一覧 19 ページ～20 ページを参照

2020年度に向けた課題

- ・大学、事業者との連携に至っていないため、環境・自然共生課が運営するメルマガを通じて情報発信する等、連携に結びつく取り組みを強化します。

基本方針4 保全と持続可能な利用 ～守る・活用する～

＜目標＞ 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

【施策】

- ① **まとまりのある緑や多様な自然の保全**
 - ・ 里山環境の保全・再生
- ② **水辺環境の保全**
 - ・ 河川・水路の良好な水質の保全
 - ・ 河川・水路の改修時における生物多様性への配慮
- ③ **生きものに配慮したまちづくり事業の推進**
 - ・ 公園・緑地における取り組みの推進
 - ・ 道路における取り組みの推進
 - ・ 開発事業における生きものや自然への配慮の検討
- ④ **生きものの生育・生息状況の継続的な把握**
 - ・ 生きものの現状把握
- ⑤ **外来種等による被害の防止**
 - ・ 外来種に関する情報発信
 - ・ 外来種の防除
- ⑥ **生きものや自然に親しめる場づくり**
 - ・ 生きものや自然に親しめるイベントの実施
 - ・ 生きものや自然にふれあえる場づくり
- ⑦ **農地の活用**
 - ・ 農業の活性化支援
 - ・ 生きものや自然にやさしい農業の推進
 - ・ 耕作放棄地の活用
- ⑧ **生物資源の利用等の推進**
 - ・ 生物資源の利用の推進

2019年度の成果

- ・里山環境再生事業のモデル地区で、おいも掘りなどの里山イベントを実施しました。
- ・外来種であるアライグマ・ハクビシンについて、防除事業を実施し、生態系の保全を行いました。
- ・市有の里山において、アレチウリの駆除を実施し、ほぼ被圧することができました。
- ・緑地や街路樹等の管理をすることで、生きものの生育・生息環境を維持することができています。
- ・小学校でのビオトープの出前授業を開始しました。身近な生きものの生息場所について学んでもらうことができました。
- ・町田産農作物の学校給食での活用のため、市内42校の学校給食で年2回ずつ「まち☆ベジメニュー」を実施しました。

※ [施策実施状況一覧](#) 21 ページ～26 ページを参照

2020年度に向けた課題

- ・今後も、さらに市民が生物多様性の恵みを実感できる取り組みを行っていく必要があります。
- ・今後も、より多くの方に生物多様性の重要性に気付いていただけるような取り組みを実施していく必要があります。
- ・里山や水辺などの環境を利用しながら保全する仕組みは、市民団体等の協力によって形になってきました。この仕組みを継続していけるような行政の支援が必要です。町田市と市民団体の協働が継続しやすい環境づくりに取り組む必要があります。

重点プロジェクト①

生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

町田市の生物多様性の取り組みの検討の場、情報や資料の収集・発信の拠点をつくります。

2019年度の成果

- ・インターネット上に構築した情報拠点（ホームページ）から、生物多様性、外来種、これまでの調査結果、団体紹介など、町田の生きものに関する情報を整理、公開しました。
- ・2019年4月から、スマートフォンアプリで収集した生きものの写真を定期的にホームページに掲載し、町田市内の生きものの魅力を発信しました。
- ・普及啓発資料として「まちだ生きもの探しマップ」「お家に生きものを呼んでみよう（家庭でのビオトープ作りのコツを紹介するパンフレット）」を公共施設や各イベントで配布しました。
- ・外来種等を含め、生きものの生息情報の報告を年間で313件受け、対応内容の中で役立つ情報はホームページやQ & Aで情報発信を行いました。

2020年度に向けた課題

- ・今後は、公共施設等に生物多様性の普及啓発資料を常設する「生きもの情報コーナー」を新設し、より多くの方に生きもの情報に触れていただくことで、町田市の生きものに関心を持っていただく取り組みを実施します。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	内容・方向性の検討	ホームページ上に生物多様性のページ作成	ホームページ上での情報発信 内容・方向性の検証	拠点機能の整備 内容・方向性の検討	アプリの活用	→	拠点機能の充実
						生きもの情報コーナーの設置	

《定量評価の視点》

指標：市民アンケート調査結果による生きものに関心のある市民の割合

達成目標：40.0%

年度	基準年（2013）	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
割合	31.3%	28.1%	27.8%	37.4%	37.5%	33.7%	目標 40.0%

重点プロジェクト②

多様な主体の交流の場づくり

多様な主体の交流の場である「生物多様性フォーラム」を定期的に開催します。

2019年度の成果

- ・町田エコフェスタにおいて生物多様性フォーラムを開催し、ビオトープに関する講演「お家に生きものを呼んでみよう」と、里山をテーマとした講演「秋の七草で広げる身近な自然」を実施しました。ビオトープの講演は、(公財)日本生態系協会の白鳥勝也氏、里山の講演は(株)地域環境計画の彦坂洋信氏に講師をお願いしました。
- ・講演の聴講者数は、2講演で31名でした。
- ・ビオトープの展示は2団体と市が出前授業を行った4つの小学校、パネル展示は2団体、活動PRチラシは5団体が設置して、活動状況を来場者に見ていただきました。団体の方が展示パネルの紹介を行うことで、来場者が立ち止まって興味を示す効果がありました。

2020年度に向けた課題

- ・講演の聴講者数をさらに増やす工夫が必要です。
- ・町田エコフェスタ(生物多様性フォーラム)の来場者には、ビオトープという言葉になじみがない方もいらっしゃいました。引き続き、普及啓発をしていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	検討・プレフォーラムの実施	「生物多様性フォーラム」					
		第一回「未来に伝えよう!町田の生物多様性」	第二回「里山を楽しく生かす」	第三回「町田の哺乳類・野鳥」	第四回「秋の七草で広げる身近な自然」	第五回「外来生物とのつきあい方」(案)	第六回「町田の生物多様性と魅力発信について」(案)
				定期的開催(年1回)			▶

《定量評価の視点》

指標：多様な主体の交流の場の提供回数

達成目標：6回

年度	基準年(2013)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
回数	—	1	1	1	1	1	累計目標6

重点プロジェクト③

里山の生物資源利用促進の取り組みの推進

手入れがされなくなって植生が単調になった雑木林の手入れを行いやすくするため、伐採木等の利用方法などを考えていきます。また、里山の保全や手入れなどを行っている市民などと協働して実施できる取り組みを検討し、実施します。

2019年度の成果

- ・北部丘陵では、町田市山林バンク制度のモデル事業をすでに2箇所で開催しています。(上小山田町中谷戸周辺、下小山田町東谷戸周辺)。市と協定を結んだ団体は里山を保全しながら、活用もしており、おいも掘りなどのイベントも実施しています。さらに未利用地の活用の希望にも応え、協定書の変更も行いました。
- ・2019年3月に相原中央公園で、里山の生物資源を利用したイベントを企画、18名に申し込いただきましたが、新型コロナの影響を考慮して、一般向けは中止とし、職員向けの生物資源の利用研修を実施しました。

2020年度に向けた課題

伐採した竹、樹木を利用したカントリーヘッジ（伐採した木の幹や枝でつくる低い柵）作り等の里山資源の活用や保全活動が安定して継続できる仕組みづくりが課題。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	方向性・取り組み内容の検討	→	取り組みの試験的实施	→	取り組みの本格的実施	→	→

《定量評価の視点》

指標：里山の生物資源利用促進の取り組みの実施

達成目標：取り組みの推進

年度	基準年(2013)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
内容	—	検討	検討	試験的实施	試験的实施	本格実施	本格実施

重点プロジェクト④

市民協働による生きもの調査の実施

多くの方に生きもの調査に参加していただき、市内の生きもの状況を知る機会をつくれます。

2019年度の成果

- ・市民協働による生きもの調査の一つとして、2019年4月から「まちピカ町田くん」を使った生きもの情報の投稿を受付開始。夏季には投稿を増やすためキャンペーンを実施。1年間で995件の投稿をいただき、生きもの調査への参加者数が飛躍的に増えました。
- ・忠生公園でアプリ「まちピカ町田くん」普及のための企画として、自然観察会を利用した撮影講習会を行い、10名に参加いただきました。
- ・こども向け水辺の生きもの調査として、薬師池公園で外来生物であるアメリカザリガニの生息調査を行い、25名に参加していただきました。捕獲したザリガニは、一匹のみ持ち帰り可として、生きものに触れ合う機会を提供できました。

2020年度に向けた課題

- ・今後も市民に身近な生きものに目を向けていただき、市内の生きもの生息状況を把握するため、調査を継続していきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	調査の実施、 調査内容・運営の改善				事業の検証、改善		
	セミの鳴き声調査				アプリの活用		
	かいぼり生きもの調査	セミのぬけがら調査	ツバメの巣探し調査	水辺の生きもの調査	外来生物調査	冬の野鳥調査(案)	植物調査(案)
	早春の生きもの調査						

《定量評価の視点》

指標：市民協働による生きもの調査への参加者数

達成目標：3500人（累計）

年度	基準年（2013・14）	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
年度人数	99・132	286	517	309	265	1,321	—
累計人数	—	286	803	1,112	1,377	2,698	3,500

重点プロジェクト⑤

ビオトープ作庭イベントの開催

まちぐるみでビオトープを作庭し、イベントを開催します。

2019年度の成果

- ・市内小学校4校10クラスで、ビオトープの出前授業を行いました。講師は（公財）日本生態系協会の専門家をお願いしました。ビオトープに生息している生きものの種名を瞬時に判定し、説明を行ったので、学校からも生きものの生息状況がよくわかれると好評でした。
- ・エコフェスタ（生物多様性フォーラム）でビオトープ作庭PRの募集を行ったところ、2団体から申し込みをいただき、当日写真等の展示を行いました。

2020年度に向けた課題

- ・ビオトープ普及啓発資料は環境月間、エコフェスタなどのイベントで配布しましたが、ビオトープという言葉になじみのない方も少なくありませんでした。引き続き普及啓発を行っていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	情報収集、「ビオトープ作庭イベント」の内容検討			普及啓発資料発行	普及啓発資料公開、配布		
				イベント開催 (年1回)			

《定量評価の視点》

指標：イベント参加主体数

達成目標：50

年度	基準年(2013)	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
参加主体数		—	—	—	9	12	—
累計	—	—	—	—	9	21	50

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針1 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	
				担当課名
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	市庁舎で実施した環境月間、エコフェスタ、環境教育展において、「生きもの探しマップ」「生きもの発見レポート(スマホ投稿アプリ)」等の普及啓発資料を配布しました。薬師池公園、忠生公園で実施した生きもの調査においても配布しました。	環境・自然共生課
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	がにやら通信NO244号から255号を発行し、約620部を館内で配布しました。四季おりおりの情報を発信できました。	公園緑地課
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	小野路宿里山交流館土蔵において、小野路の自然についての企画展示を実施し、小野路の自然に興味を持つ人に対して小野路の魅力を伝えることができました。	観光まちづくり課
1	1 ①	町田市の生物多様性に関する情報の普及啓発資料の作成	市庁舎や公園を利用したイベントで、「生きもの探しマップ」「生きもの発見レポート(スマホ投稿アプリ)」等の普及啓発資料を配布しました。市民の方から投稿いただいた生きもの写真をホームページで紹介しました。	環境・自然共生課
1	1 ①	外来種の飼育に関する情報の発信	ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。市庁舎や公園を利用したイベントで、「まちだ生きもの探しマップ」を配布しました。「まちだ生きもの探しマップ」には「入れない」「捨てない」「拡げない」外来生物被害予防三原則を掲載しており、多くの方に周知することができました。	環境・自然共生課
1	1 ①	外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信	ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。市庁舎や公園を利用したイベントで、「まちだ生きもの探しマップ」を配布しました。「まちだ生きもの探しマップ」には「入れない」「捨てない」「拡げない」外来生物被害予防三原則を掲載しており、多くの方に周知することができました。自治会・町内会の掲示板にアライグマ・ハクビシン防除事業の案内を掲示してもらいました。また、ヒアリやゴケグモなど、危険な外来生物についての問い合わせにも正確な情報提供を継続しています。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
1	1 ①	登録文化財制度による市内の生きものの情報発信	2019年度中、全5回文化財保護審議会を実施しました。自然誌にかかる議題が発生しませんでした。次年度以降も学識経験者に委嘱して議題に対応できる体制を維持していきます。	生涯学習総務課
1	1 ②	事業者向け普及啓発資料の作成	市ホームページに環境省作成の「生物多様性と民間参画」や東京都作成の「生態系に配慮した緑化推進」を掲載して普及啓発を図りました。	環境・自然共生課
1	1 ③	生物多様性に関する資料・情報や環境保全活動等に関する情報を収集・発信する仕組みづくり	重点プロジェクト①参照	環境・自然共生課
1	1 ④	市民協働による生きもの調査の実施	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課
1	1 ④	町田市農業祭の開催	11月に町田シバヒロにて町田産農畜産物の販売や・品評会等を行い、来場者に町田市の農畜産物をPRしました。18,126人の来場があり、多くの方に町田産農畜産物（まち☆ベジ）のPRを行うことができました。	農業振興課
1	1 ④	町田エコフェスタ等環境イベントにおける生物多様性に関するイベントの実施	町田エコフェスタで、町田生きもの共生フォーラムを実施しました。環境月間の展示や環境教育展等においても町田の生きものに関するパネル展示を行いました。2019年度はスマホアプリを使った市民からの投稿写真も展示できたことで、各イベントにおいて最新の町田の生きもの情報を提供することができました。	環境・自然共生課
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	8月に昆虫と地球温暖化をテーマとした子ども向け体験学習イベント「消えた昆虫の謎」を実施しました。 8月に子どもセンターつるっこでセミ・セミナーを実施しました。 「消えた昆虫の謎」は、劇団音楽座ミュージカルの参画を得て本格的な演出を行ったり、本物のカブトムシに直接触れるコーナーを設置する等、子供が喜ぶ趣向を凝らしたことで、事後のアンケートで来場者から高い評価をいただきました。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>【子どもセンターまあち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア講師による星空観察会を行いました。天体や星についての基礎知識を学び、早見盤を作成するなどして自然に興味を持つ機会やきっかけ作りにつながりました。 <p>【子どもセンターただON】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣高校の天文同好会の協力のもと、天体観望会を行いました。高校生と小学生とのコミュニケーションの場、親子でのコミュニケーションの場にも繋がっていました。 <p>【子どもセンターばあん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年定例クラブではブロッコリーやラディッシュを育てて収穫しました。普段自分たちが食べている野菜の成長過程を知る機会になりました。 ・幼児とその保護者を対象に、おいも掘りを近隣農家のご協力のもと実施しました。親子で協力しておいもを掘り、土に触れたり、どのように作物が出来ているのかを知る機会になりました。 ・イキモノ実験教室「昆虫の体を調べよう」を、NHK Eテレ高校講座『生物基礎』監修の市石氏に講師を依頼し実施しました。夏休みということもあり親子での参加も多く、昆虫や生きものについて理解を深められたようで、とても好評でした。 	児童青少年課
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を9回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の91.0%を占めました。</p>	大地沢青少年センター

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
1	2 ①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	市内4校の小学校でピオトープの出前授業を実施しました。実施した学校からは、ピオトープに生息する生きものが詳しくわかってよかったと好評をいただきました。	環境・自然共生課
1	2 ①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	<p>【子どもセンターただON】 8月に大地沢青少年センターでデイキャンプを行い、2月には宿泊キャンプを行いました。また、12月には地域巡りを実施しました。地域巡りの企画では、歴史的な場所を中心に忠生地域を巡り、自分たちの住んでいる町の歴史や自然などについて知ることができました。</p> <p>【子どもセンターばあん】 ・8月に大地沢青少年センターで宿泊キャンプを行い、野外活動を通じ自然とふれあう体験活動を実施しました。自然の中で活動することにより、実生活と違う体験をし自然に触れることで、子どもたちの感性や情緒を育み自然や生き物への関心を高めることができました。</p> <p>【子どもセンターつるっこ、まあち】 ・宿泊活動や長距離ウォーキングを予定していましたが、荒天や新型コロナウイルス感染拡大等の影響のため、中止となりました。</p>	児童青少年課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
1	2 ①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	自然体験塾、子どもキャンプ、ハイキング、森林体験塾等各事業を8回実施しました。参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の90.5%を占めました。	大地沢青少年センター
1	2 ①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
1	2 ②	地域ボランティア等との交流による学校ビオトープの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や理科、総合の学習において、虫やメダカなどの水辺の生き物の観察・飼育を行いました。 ・地域の方々の協力を得ながらビオトープの整備を行うとともに、児童が学習等で活用しました。ビオトープの管理をし、生き物と触れ合うことを通して、自然の仕組みを学ぶとともに、動植物への愛着の心を育てることができました。 ・学校近くの池の清掃活動を行ったり、「ホタル観賞会」を行いました。 	指導課
1	2 ②	学校における農業体験の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家や保護者の協力を得ながら田や畑を耕し、米や野菜を育てて食べる活動を行いました。 ・米作りでは、田んぼの管理とは別に、一人一つ自分の稲を持ち、水の管理と観察を行いました。収穫後に残った藁を使って「しめ飾り」を作るなど、副産物を有効に活用する取組を実施しました。 ・農業体験活動を通して、児童の食文化や健康について理解を深めました。また、自分の稲を持つことで、稲を大切に育てようとする気持ちを高めることができました。 	指導課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
1	2 ②	生きものとふれあうことができる場づくり	これまでのヤギが亡くなり、新たに2頭の子ヤギの飼育を行いました。全学年の児童が輪番で、中休みと放課後に小屋の掃除やえさやりを行いました。また、飼育委員や中学生も活動を行いました。輪番ですべての児童が経験することにより、一人一人がヤギとかかわることができ、ヤギの習性を学んだり、動物への愛着の心を育てたりすることができました。	指導課
1	2 ②	地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	保全会の方に指導してもらい、共有林の歴史、小学校との関係について話をしてもらいました。また、下草刈りや木の生長の測定の仕方の指導、間伐の体験等を実施しました。林業体験を通して、木の特性を学ぶとともに、学校が地域と結びついているという実感や、森を守っていこうとする意欲を育てることができました。	指導課
1	2 ②	地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植え及び植樹を行うことによって、身近な自然を楽しみ、親んでもらうことができました。	農業振興課
1	2 ③	自然観察会の実施	忠生公園で年間11回開催し、175名に参加いただきました。 かしの木山自然公園では年間4回開催し、24名に参加いただきました。幼稚園生からご年配の方まで幅の広い参加者に自然観察を楽しんでいただきました。	公園緑地課
1	2 ③	フットパスの普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちだフットパス「相原から七国峠」コースと「小野神社から小野路界限」コースに道標をそれぞれ1基設置しました。小野路、相原エリアに関しては一定の基盤整備が完了しました。 ・小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。 	観光まちづくり課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針2 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況		担当課名
2	1	① 町田市の自然環境や生きものに詳しい人材の把握と活用	10月の町田エコフェスタのイベントの一つとして、町田生きもの共生フォーラムを実施しました。ビオトープの講習会と里山に関する講演を行いました。市民団体にも来場いただき、各団体の活動PRやチラシ配布等を通じて交流を深め、情報共有をすることができました。		環境・自然共生課
2	1	① 環境講座の実施	前期8回、後期9回の連続講座を実施しました。講義、実習、見学などを取り交ぜて、土日開催としました。幅広い年齢層の参加があり、連続講座の受講を通して、環境保全に対する意識の向上に繋がりました。実習や講義などの組み合わせにより、エコ活動ひいては地球にやさしい社会についての理解を深められました。		生涯学習センター
2	1	① ネイチャーリーダー講座の実施	法政大学、桜美林大学を訪問し情報交換を行いました。大学生に投稿アプリを活用して生きものや自然に関わってもらい相談をしたり、いただいたアドバイスを参考に、アプリ投稿への返信を開始するなど大学、市民との意思疎通が進みました。		環境・自然共生課
2	1	① 市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照		環境・自然共生課
2	1	② 援農者、新たな担い手の育成	第9期9名(2年目)、第10期9名(1年目)の研修を行いました。第9期9名は研修を終了し、今後は市内の農業の担い手として活躍することが期待されます。		農業振興課
2	1	② 意欲のある農業者の支援	意欲のある農業者に対して経営相談の支援を行い、10名を認定農業者として認定しました。意欲のある農業者を認定農業者として認定することで、地産地消の推進等が期待できます。		農業振興課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針3 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況		担当課名
3	1	① 市民協働による生物多様性保全に関する取り組みの実施	忠生公園自然観察会と協働でスマートフォンを利用した生きものの撮影講習会を開催しました。10名の一般市民が参加し、講習後のアンケートでは「撮影のコツがつかめた」等好評をいただきました。		環境・自然共生課
3	1	① 市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照		環境・自然共生課
3	1	② 生物多様性に関する情報の提供	市民から投稿いただいた生きものの写真をパネルにして紹介したり、ホームページで紹介しました。また、いただいた写真を取りまとめて「まちだ生きものアルバム」として発刊し、プレスリリースするなど、市民活動の動機付けを図り、支援を充実させました。		環境・自然共生課
3	1	② 市民による河川の維持管理の支援	町田市ホームページと広報まちだに境川クリーンアップ作戦実施についての記事を掲載し広報に努めました。当日は、1602人が参加し、事業全体で合計2490Kgのゴミを回収することができました。		下水道経営総務課
3	1	② 市民による水路の維持管理の支援	アダプト事業の推進として周知に努めた結果、水路用地1団体に申請頂き12団体となりました。また高ヶ坂松葉調整池で活動している団体には池の清掃活動だけでなく、生きものの調査活動も実施してもらいました。		下水道管理課
3	1	③ 市民協働での里山管理の仕組みの検討	既存の山林バンクモデル事業団体から、未利用地であった場所を整備し、活用したい旨の要望があり、協定書の変更を行いました。未利用地を山林バンクモデル事業の活用面積で増やすことができ、生き物や生息環境を守ることにもつながりました。		農業振興課
3	1	③ 市民や市民団体が活動内容の発表や情報交換等の交流を行う場づくり	重点プロジェクト②参照		環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
3	2 ①	大学や事業者との連携による啓発事業や調査等の実施	意見交換をすることはできましたが、恒常的に連携をしていくため、参加することによる学生の負担や利益も検討し、協働を模索していきます。	環境・自然共生課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針4 関連

基本方針 目標	施策 番号	目 号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当 課名
4	1	①	里山環境再生事業の実施	鶴見川源流域及び奈良ばい谷戸において、環境再生事業を実施しました。雑木林や谷戸の適切な管理作業をすることによって、里山環境の維持保全をすることができました。	農業振興課
4	1	①	町田市ふるさとの森の保全	図師南特別緑地保全地区の用地取得（約80㎡）を行いました。市有地化することで、緑地保全を確実に進めています。	公園緑地課
4	1	①	里山環境再生事業の新規実施地域の検討	既存の山林バンクモデル事業団体から、未利用地であった場所を整備し、活用したい旨の要望があり、協定書の変更を行いました。未利用地を山林バンクモデル事業の活用面積で増やすことができたことで、生き物や生息環境を守ることもつながりました。	農業振興課
4	1	①	里山環境再生事業の新規実施地域の検討	現地調査や市民要望に応じて草刈りや剪定等を行い市内の緑地を保全しました。草刈りや樹木剪定を適切に行うことによって、市内の緑地が保全され、また動植物にとっても生息・生育しやすい状況に保つことが出来ました。	公園緑地課
4	1	①	里山環境再生事業の新規実施地域の検討	里山環境再生事業を進めるための航空写真、図面データを作成しました。航空写真、図面データを作成することで、場所の状況が把握できるようになりました。	農業振興課
4	2	①	下水処理における適正な水処理	2つの下水処理場において、適正な水処理運転により良好な処理水質を得ました。鶴見川クリーンセンターでは、新たに完成した高度処理施設の運転を開始し、処理水の窒素及びりん含有量を削減しました。放流先河川の良好な水質の保全に寄与しました。	水再生センター
4	2	①	市民による河川の清掃活動の推進【再掲】	町田市ホームページと広報まちだに境川クリーンアップ作戦実施についての記事を掲載し広報に努めました。当日は、1602人が参加し、事業全体で合計2490Kgのゴミを回収することができました。	下水道経営総務課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
4	2 ①	市民による水路の維持管理の支援	アダプト事業の推進として周知に努めた結果、水路用地1団体に申請頂き12団体となりました。また高ヶ坂松葉調整池で活動している団体には池の清掃活動だけでなく、生きものの調査活動も実施してもらいました。	下水道管理課
4	2 ②	雨水幹線整備時における水辺環境への配慮	2019年度は水辺環境に配慮できる雨水幹線整備事業がありませんでした。	下水道整備課
4	3 ①	街区公園整備事業	2019年度は別の事業を優先実施しました。	公園緑地課
4	3 ①	公園・緑地の整備・管理における生物多様性保全の推進	計画に基づき、町田薬師池公園四季彩の杜西園や芹ヶ谷公園の整備を行い、生物と共生できる空間が新たに創出されました。また、既存の公園緑地について、現地調査や市民要望に応じて、草刈や樹木剪定を行い良好な状況に維持しました。	公園緑地課
4	3 ②	緑の連続性に配慮した街路樹の維持・管理	枯損などにより欠損した植樹樹等に、計850株の低木を植栽し、連続した緑の確保を行いました。都市部における生きもののささやかな生息域の確保と、道路上にうるおいをもたらす緑化につなげることができました。	道路維持課
4	3 ③	開発事業実施の際の生物多様性への影響に対する配慮の検討	市ホームページに環境省作成の「生物多様性と民間参画」や東京都作成の「生態系に配慮した緑化推進」を掲載して事業者への普及啓発を図りました。	環境・自然共生課、関係各課
4	4 ①	市内の生きものの生育・生息状況の把握	4月からアプリ「まちピカ町田くん」を使った生きものの情報の投稿受付を開始し、投稿を995件いただくことができました。スマホ投稿アプリによる市民協働の生きもの調査の特徴として、対象地域を限定せず、市内全域から情報が収集できるメリットあります。	環境・自然共生課
4	4 ①	市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照	環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
4	4 ①	生物多様性の現状を把握するための環境指標種*の検討	アプリ導入にあたり専門家と相談し、投稿しやすく、かつ、指標となるような種を選定して投稿の受付を開始しました。昆虫類のうち8種、野草のうち9種を選定して、投稿を受けました。予想を超えて多くの投稿をいただいたことで貴重な情報が収集できました。	環境・自然共生課
4	5 ①	外来種の飼育に関する情報の発信【再掲】	ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。市庁舎や公園を利用したイベントで、「まちだ生きもの探しマップ」を配布しました。「まちだ生きもの探しマップ」には「入れない」「捨てない」「拡げない」外来生物被害予防三原則を掲載しており、多くの方に周知することができました。	環境・自然共生課
4	5 ①	外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信【再掲】	ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。市庁舎や公園を利用したイベントで、「まちだ生きもの探しマップ」を配布しました。「まちだ生きもの探しマップ」には「入れない」「捨てない」「拡げない」外来生物被害予防三原則を掲載しており、多くの方に周知することができました。自治会・町内会の掲示板にアライグマ・ハクビシン防除事業の案内を掲示してもらいました。また、ヒアリやゴケグモなど、危険な外来生物についての問い合わせにも正確な情報提供を継続しています。	環境・自然共生課
4	5 ②	生態系に被害を及ぼす特定外来生物アレチウリの駆除	定期巡回を行い、アレチウリの駆除を行いました。アレチウリの除去を継続的に行い、ほぼ被圧することができました。	農業振興課
4	5 ②	農業生産に被害を及ぼす特定外来生物アライグマの駆除	町田市農業協同組合へ小動物捕獲の委託を行い、外来生物（アライグマ・ハクビシン）の駆除を推進しました。一定数の小動物の捕獲をすることができ、農業被害の軽減につなげることができました。電気柵を活用した防除について、市内農家の協力をいただき、検証事業を実施しました。電気柵については、一定の効果があることを検証で確認できました。	農業振興課
4	5 ②	外来種への対応の検討	アライグマ・ハクビシン防除事業を継続しました。自治会・町内会にアライグマ・ハクビシン防除事業の案内を掲示板に貼りだしてもらい、掲示板を見た市民から問い合わせが入りました。2019年度は118件の防除申込を受け付け、アライグマ3頭、ハクビシン5頭を捕獲しました。ヒアリやゴケグモなど、危険な外来生物についての問い合わせにも正確な情報提供を継続しています。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
4	6 ①	農業体験の実施	市民公募を行い、米づくり体験を実施しました。米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
4	6 ①	農業体験の実施	市民公募を行い、13組32名の応募があり、田植え、草取り、稲刈り、収穫祭の米づくり体験を実施しました。米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
4	6 ①	生きものや自然に親しめるイベント等の実施	市民公募を行い、タケノコ堀、サツマイモ堀、ウォーキング等のイベントを実施しました。各イベントに参加することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
4	6 ①	生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター・かしの木山自然公園定例自然観察会については、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者を楽しんでいただきました。	公園緑地課
4	6 ②	まちだフットパスの利用促進【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・まちだフットパス「相原から七国峠」コースと「小野神社から小野路界限」コースに道標をそれぞれ1基設置しました。小野路、相原エリアに関しては一定の基盤整備が完了しました。 ・小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。 	観光まちづくり課
4	6 ②	ビオトープ作庭イベントの開催	重点プロジェクト⑤参照	環境・自然共生課
4	6 ②	生産緑地の保全・活用	<p>2019年2月に21件41筆15,276㎡の追加指定の応募があり、うち3月に21件34筆13,717㎡を生産緑地として推薦をしました。2020年1月にも追加指定の募集を行い、21件34筆13,888㎡の追加指定の応募があり、うち3月に21件31筆12,703㎡を生産緑地として推薦をしました。</p> <p>2019年3月に推薦した農地のうち、19件29筆13,051㎡が生産緑地として認められ、2020年1月1日に指定されました。</p>	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名	
4	7	①	町田産農作物の学校給食での活用	市立小学校 42 校の学校給食で、年 2 回ずつ、まち☆ベジメニューを実施しました。全校で取り組んでいることをPRすることで、児童や保護者にまち☆ベジについて関心を持っていただきました。	保健給食課
4	7	①	町田産農作物の学校給食での活用	小学校給食への地場産農産物供給に対する補助を行いました。新規にまち☆ベジメニューの日を 2 回実施しました。供給率の大幅な増加はありませんでしたが、市内全小学校で地場産野菜を供給することができました。	農業振興課
4	7	②	減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援	エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始しました。事業のPRをした結果、エコ農産物認証申請が 9 件ありました。	農業振興課
4	7	②	田んぼの保全推進	事業の方向性を検討中です。	農業振興課
4	7	③	・遊休農地のあっせん制度	2020 年 1 月にバンク公開を行い、2020 年 4 月 1 日付けで新規農地あっせんが成立しました。新規農地あっせんが 7 件 12,073 m ² 成立し、遊休農地の解消が図れています。	農業振興課
4	8	①	★生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照	農業振興課、公園緑地課、環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2019年度実施状況	担当課名
4	8 ①	木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	各種イベント等に出展し、剪定枝たい肥の販売やPRを行いました。コロナウィルス感染症対策のため、一部実施できなかったイベントもありました。	資源循環課
4	8 ①	木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対して補助率を上げて堆肥流通促進事業補助金を交付しました。農業者に対して、窓口にてPRを開始しました。家畜ふん尿の資源循環を促進することができました。	農業振興課